

世界的に資源開発意欲が減退している。これまで世界の経済を牽引してきたのは中国だが、経済が伸びきったのか、一時の勢いはない。中国税関によれば2月の輸出は18%減となった。それでも中国政府は経済成長の鈍化によって大衆の不平不満が表面化するのを恐れて、経済の抑制政策はとっていないようにみえる。

習近平政権は経済発展を7%台に維持するべく、地方の経済開発を進めている。同時に地方分権も行っているが、その結果、地方政府による計画性のない生産増強を中央政府はコントロールすることができなくなっている。

例えば、中国の鉄鋼の余剰在庫は現在かなりの数量に上るといわれている。鉄鋼生産能力は、日本の鉄鋼生産量の約10倍で、生産過剰量は3億トにも上るといふ。日本の鉄鋼生産量が約1億トだから、異常事態だといえる。

レアメタルの世界でも地方分権によって生じた動きがあった。金属取引所の設立ラッシュだ。この数年で、雲南省昆明、広西省南寧、河北省天津と相次いでレアメタル取引所が設立された。レアアースについても、内モンゴルの包頭に取引所の設立が進められている。

特に昆明の泛亜有色金属取引所は、主要株主が、レアメタルとは無縁の国営・雲南航空公司と複数の地場の企業である。昨年、この取引所のインジウム相場が、実需の動

AROUND THE WORLD

山師の手帳 第29回 中村繁夫

中国の資源経済と Value of Nature



きから離れて、ジリジリと上昇し始めたのである。いうまでもなく、投機マネーの流入によって起きた動きだ。

レアメタルは、市場規模が小さい。そのため、レアメタル資源大国である中国によって価格操作が行われることも、しばしばある。実際、中国の保有量から換算すると、日本の経済産業省が定めている32のレアメタルの半分以上について、中国は価格操作をすることが可能だ。2010年に尖閣諸島の問題で、中国がレアアースの輸出禁止を決定した結果、市況が大暴騰したのはその典型例だ。

わが社でも、ピーク時には毎月輸入する20フィコンテナ1個の積み荷が30億円もする異常事態となった。投機家たちにマネーを供給していたのが、世界的に有名になったシャドーバンキングである。

近づきつつある 中国のバブル崩壊

このところ、世界のレアメタル業界でも「Value of Nature (自然の価値)」という考え方が議論されることが多くなった。レアメタルの採掘や製錬では、経済合理性を過度に追求すると、自然環境を毀損することが多いことが問題になってきているからだ。東京大学の岡部徹教授は「現在の社会システムの最大の問題は、鉱物資源の評価が低い点にある。そのため、不当に安く採掘され、消費されている。鉱石が本来持



っているValue of Natureについて真剣に考えるべきである」と指摘している。

自然の価値といっても最終的には、需要と供給のバランスで決定するものだ。しかし、採掘業者の無秩序な新規参入や、取引所が乱立するという中国の資源経済メカニズムは、むしろ需給バランスを壊すものだ。その結果、自然の価値も損ねている。

さて、シャドーバンキングからの融資による理財商品のデフォルトが時間の問題だとみる向きが増えてきたなかの3月7日、太陽光関連企業の上海超日太陽能科技の社債がデフォルトした。

中央政府は、でたらめにやってきた金融機関を救済する余裕はないということだ。しかし、これらのデフォルトがトリガーになることで、取り付け騒ぎが起き、中国の金融システムそのものがバンクしてしまつたら、08年のリーマンショックどころの騒ぎでは収まらないだろう。バブルの崩壊が来る可能性が増大している。

〔なかむら・しげお〕1947年生まれ。レアメタル専門商社・アドバンストマテリアルジャパン(AMJ)社長。新著に「レアメタルハンター・中村繁夫のあなただけの仕事に成功に導く「山師の兵法A to Z」(ウェッジ)。